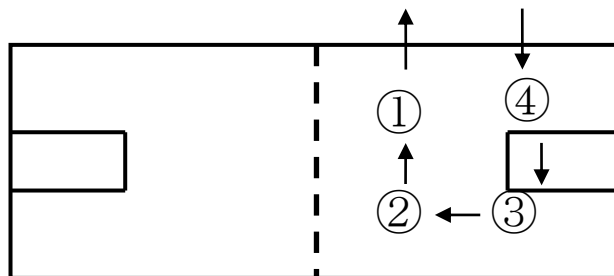


# ビーチボールバレーのルール(飯高)

2018 年 11 月一部修正

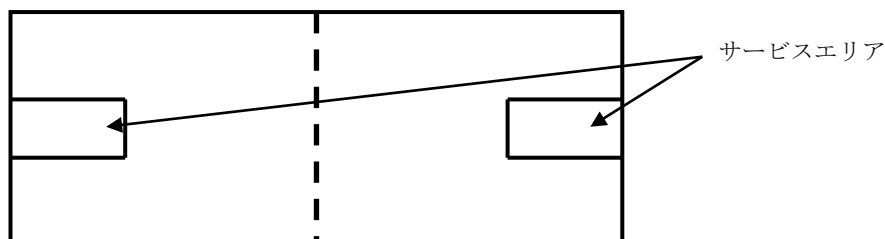
## 競技方法

- ・ コートは、バドミントンダブルスコートを使用します。
- ・ ネットは、バドミントン用を使用します。高さは 185cm とする。
- ・ ボールは、ビーチボール(直径約 40 cm)を使用します。
- ・ 得点は、ラリーポイント制、決められた時間内で多く得点したチームの勝ちとする。
- ・ 整列後、主審の合図により主将同士がネット間で挨拶をし、ジャンケンでサーブ権とコート権を選ぶか決めます。一方のチームがサーブ権を取った場合は、相手チームにコート権が与えられます。
- ・ コート権を得たチームは、どちらのコートで試合をするか主審に申し出ます。(サーブ権を取ったチームは、相手チームよりコートチェンジの申し出があった場合、拒否はできません。)
- ・ 1チーム 4 人～6 人とし、全員での時計回りローテーションとする。
- ・ 審判(主審、副審、線審)は、相互審判により行う。



## サーブ

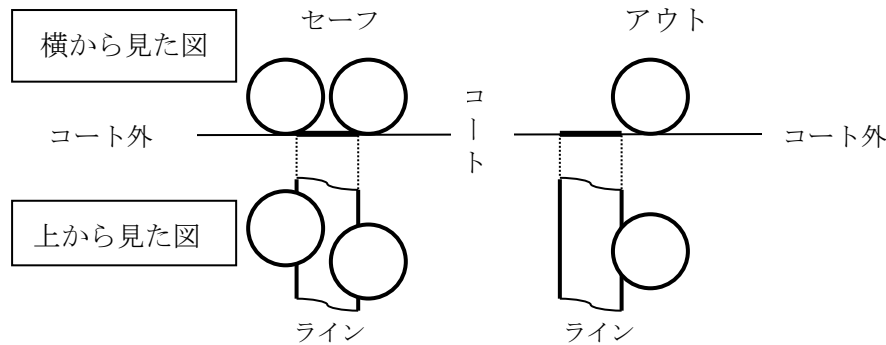
- ・ サーブはサービスエリア内から打ちます。
- ・ サーブ開始の吹笛の後、空振りをした場合はサーブ失敗となり、サーブ権が移行します。
- ・ サーブは右後方の位置にいる人がおこなう、その時、他の選手はコート内に位置しなければならない。
- ・ サーブは主審のホイッスルの後、5秒以内に打たなければならない。(打たないと、反則になります。)
- ・ サーブ時は、ラインを踏んでも良いが、踏み越えてはいけません。(足の一部がラインを踏んでいれば、踏み越えたことになりません)
- ・ サーブ時は、サーバーの足の一部は床面に付けていなければならない。(ジャンプサーブ禁止)
- ・ サーブはネットインに限り 2 本までとする
- ・ サーブは、サーブ権が移動するまで1人が連続して行う。



## イン(セーフ)アウトの判定

- ボールのイン(セーフ)アウトの判定は、ボールがラインに触れているかどうかで判断します。ボールがライン端にかかっていたらイン(セーフ)となります。

(判定はあくまで人の目で見えるものであるため、審判の判定には真摯に従うこと。)



## 打球

- 打球は、3回(1回、2回は不可)で相手コートに返します。
- 捕球は、ウエスト(腰)から上の部分であれば、どこで打ってもかまいません。
- ボールは同時であれば、2箇所以上の部分にあたってもかまわない。ただし、静止(ホールディング)してはいけません。
- 1人の競技者が、2回連続(同時以外で)でボールに触った場合、ドリブル(反則)になります。
- 同じチームの2人以上の競技者が同時にボールに触れた場合は、1回のプレーとし、どちらが続けてプレーしてもドリブルにはなりません。
- ボールはネットの外側を通過しても、ネットより高ければよい。

## 反則

- オーバータイムス ... 同一チームで4回以上ボールをプレーしたとき。
- ホールディング ... ボールを受け止めたり、ボールが体の一部で静止したとき。
- フットボール ... ボールがウエスト(腰)よりも下に当たったとき。
- ドリブル ... 同一競技者が続けてボールに触れたとき。
- タッチネット ... 競技者がネットに触れたとき。
- オーバーネット ... 手などがネット上をこえて、相手のコート上でボールに触れたとき。
- インターフェア ... ネットの下から、相手コートに体が出たとき。(センターラインは踏んでもかまいませんが、踏み越えてはいけません。)

## タイムアウトと選手交替

- タイムアウトは各チーム1セットに1回取ることが出来ます。時間は20秒以内です。
- クツひもの締めなおし、競技者が負傷した場合のタイムアウトは審判タイムとなるので、チームのタイムアウトの回数には数えません。
- 選手全員のローテーション制のため選手交替はありません。負傷等で退場の場合は残りの競技者で続け、3名以下となった場合は失格とする。